

全国協議会 ニュース

2016年1月1日発行 第283号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髓バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田1-3-4KT ビル3階
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
発行責任者：野村正満 題字：仲田順和（会長）
http://www.marrows.or.jp E-Mail:office@marrows.or.jp

WBMT 患者擁護委員会の初会合 野村理事長が委員就任

全国協議会がパートナーシップを結んでいる世界造血細胞移植ネットワーク (Worldwide Network for Blood and Marrow Transplantation = WBMT / 小寺良尚理事長) が、患者擁護委員会 (Patient Advocacy Committee=PAC) を設置し、昨年12月6日にアメリカのオーランド (フロリダ州) で第1回の会議を開催しました。昨秋、小寺理事長から全国協議会の野村正満理事長になされた PAC の委員就任要請を受け、アジア太平洋地域を代表して野村理事長が出席しました。PAC は次回、ハワイのホノルルで開かれますが、今後は年1回の開催となる予定です。

世界レベルで患者擁護について話し合うキックオフミーティングとなるこの会議は、3万人もの血液内科関係の医師や研究者が世界中から集まるアメリカ血液学会にあわせて開催されたもので、欧米を中心に16人のメンバーが出席しました。会議はドイツのディエットガー・ニーデルバイザー氏 (WBMT 前理事長) が議長となつて行われ、各国の患者擁護について報告が行われました。

野村理事長は「日本にも患者擁護は様々なレベルで存在し、患者さんを励ます気風がしっかり根付いているものの、多くは財政的に不安定な民間レベ

ルのものである」ことを述べ、全国協議会が運営する白血病フリーダイヤルや患者支援の基金を紹介するとともに「2014年に施行された造血細胞移植推進法にも患者擁護については一切の言及もないこと、今後は行政を含む公的な裏付けが必要であること」などを語りました。

全国協議会に参画いただいて

WBMT President 小寺良尚

WBMTにはこれまでに6つの常設委員会がありましたが、7番目に患者擁護委員会 (PAC) が設置されたことは画期的なことです。非医療従事者にも WBMT に参画していただくことにより、WBMT が大きく膨らむことになると思うからです。

その発足会が米国で開催され、そこに我が国の代表的ボランティア団体であり、患者擁護部門も有する全国骨髓バンク推進連絡協議会が参画された意義は大きく、WBMT の理事長として敬意を表するとともに誇らしく思っています。

全国協議会におかれましては、今後、国内に数多くある患者擁護団体と協力し、継続してこの WBMT 常設委員会をもち立てていただきたいと思います。

「白血病患者支援募金箱」と「賛助会員募集案内」の設置

全国の商議所に協力依頼

全国協議会は、日本商工会議所 (三村明夫会頭) に、「白血病患者支援募金箱」「賛助会員募集案内」の設置について協力依頼を行いました。三村会頭名の協力要請文書と岡村正名誉会頭 (当協議会顧問) の協力をお願いが2015年12月、全国各地の商工会議所に宛ててイントラネットで通知され、旬刊の「会議所ニュース」でも紹介されました。

商工会議所は、日本の企業と地域を元気にしたいと願う民意の結晶から生まれた経済団体で、現在、全国で514の会議所が「中小企業の発展と地域の再生」に取り組んでおり、日本商工会議所は、そのネットワークを活かした活動を行っています。

それだけに、全国協議会にとっては「願ってもない援軍」となるわけです。全国協議会が置かれている財政状況の苦衷などにご理解をちょうだいすべく、具体的にお願ひしたい事柄を盛り込んだ文書やリーフレット、リーフレット立てなどを新年からお送りしています。今後も継続してお願いしてまいります。

骨髓バンクの最新情報をお知らせする

骨髄バンク NOW

〈財団マンスリー JMDP (12月15日発行) より抜粋〉

■日本骨髓バンクの現状 (2015年11月末現在)

	10月	11月	現在数	累計数
ドナー登録者数	3,086	2,785	457,065	654,874
患者登録者数	239	229	2,980	46,571
移植例数	117	107	—	18,920

■11月の区分別ドナー登録者数

献血ルーム / 612人、献血併行型集団登録会 / 2,078人、集団登録会 / 53人、その他 / 42人

注) 数値は速報値のため訂正されることがあります。

■11月の年齢別ドナー登録者数 (現在数)

10代 2,751人 / 20代 70,575人 / 30代 143,093人 / 40代 188,430人 / 50代 52,216人

■11月の20歳未満の登録者 223人

■11月末までの末梢血幹細胞移植 (PBSCT) 累計数: 136件



第1回 PACにはアジア太平洋地区造血細胞移植グループ (APBMT) の岡本真一郎代表も出席

白血病フリーダイヤル 0120-81-5929

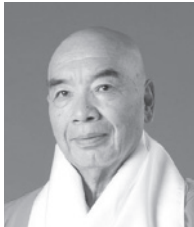
毎週土曜日 10時から16時まで、治療や闘病生活のお悩みのお相談をお受けします。第2・4土曜日には専門医に直接相談できます。

ソニー生命がサポートしています。

新法施行3年目を迎えて

2016年が明けました。本年は「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」施行3年目となり、来年の新法見直しに向け、全国協議会としての提案などを検討していくこととなります。会長、理事長、そして関係機関のトップに年頭のごあいさつをちょうだいいたしました。

「巖も貫く」不動の信念で



会長
仲田順和

あけましておめでとうございます。旧年は、私が座主を務めております京都・醍醐寺の三宝院が「開創900年」を迎え、11月25日には結願法要を執り行うことができました。醍醐寺は今年で開創1140年となりますが、長い歴史の中で培われてまいりましたので、現在では国宝6万9000点余、重要文化財6000点余を持ち、1994年には世界文化遺産に登録されました。

こうした事情ゆえの多忙であったため皆さまにお会いする機会が少なく恐縮しているところです。それでも、全国協議会設立25周年記念日本縦断キャラバンの完走式を札幌で迎えることができました。

さて、皆さまにおかれましては本年も、骨髄バンク・さい帯血バンクに関わる諸事業に力を注がれると存じます。造血細胞移植を必要とする患者さん方やドナーさんへの皆さまの熱い想いに触れるたびに、宗教家にもなすべき事柄があることに気づかされますので、私なりにできることを考えつづけることとしております。

財政状況は依然厳しいと聞いていますが、今年は是非、賛助会員の充実を計るべく、共々に努力いたしたく存じます。皆さまの不動の信念をもってすれば、文字どおり「巖も貫く」日が必ずやってくると信じています。そして造血細胞移植推進法の3年経過後の「見直し」といった、難しい課題の解決にも直面する年です。患者さん方やドナーさんのため、一丸となって取り

組まれるよう願ってやみません。私なりにできることを頑張る所存です。

今年こそ実現したい初夢



理事長
野村正満

新しい年を迎えて思うのは、今年こそは実現したい夢。それはさい帯血バンクが順調に実績を重ねる一方、かなりの課題が残る骨髄バンクの大変身。

法律の適正な運用に傾注



厚生労働省健康局
難病対策課
移植医療対策推進
室長
鈴木章記

謹んで新年のお祝いを申し上げます。平成3年の骨髄バンク事業の開始以来、これまで、関係者の方々のご理解、ご協力により着実に実績が積み重ねられてまいりました。現在では、毎年約3万人の方々に新たにドナー登録を行っていただいております。また、骨髄バンクのあっせんによる骨髄や末梢血幹細胞の移植は、平成26年度には1331件が行われました。事業開始からの累計では約1万9000件行われています。

これはひとえに、全国各地で骨髄バンク事業を支えて下さるボランティアの皆様方や関係者の方々のご理解、ご支援の賜物であり、この場をお借りしまして深く感謝を申し上げます。また、貴協議会設立25周年記念事業においては、「日本縦断キャラバン」などの様々な趣向を凝らした事業に取り組んでいただき、心より御礼申し上げます。

もっと使い勝手が良くて機能性の高いものにならないのでしょうか。

一番はコーディネート期間、根本的に考え方を改めないと短縮は難しい。提供同意確認の基本姿勢を見直し、自己血貯血等の諸基準改革を含むマニュアルの抜本的改訂という荒療治が不可欠ですが、事業当事者の中でこれに手を着けようとするお方の登場で実現。コーディネートが欧米並みに1カ月になれば、多くの患者が救済され、骨髄バンクも大きく飛躍するでしょう。

はたまた懐事情が極端にお寒く、組織の存続さえ危ぶまれる我々全国協議会の避けて通れない財政問題解決という夢。いや、夢で終わらせるわけにはいきません。岡村正顧問のお力添えで全国の商工会議所へのご協力依頼などが新年早々に始まります。とはいえ課題解決は簡単な作業ではなさそうです。多くの先輩や全国の仲間たちのバックアップが欠かせません。

こうした皆様の長年にわたる取り組みを背景としてつくられた「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」が平成26年1月1日に全面施行されました。

厚生労働省といたしましては、移植を希望する患者の方々にとって病気の種類や病状に合った最適な造血幹細胞移植が行われ、その生活の質の改善が図られるよう、関係者の皆様のご意見も伺いながら、今後とも法律の適正な運用に取り組んでまいります。

造血幹細胞移植対策の推進に当たり、貴協議会のますますのご支援、ご協力を賜りますよう心からお願い申し上げますとともに、会員皆様方のご健勝、ご活躍を心より祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

若年層ドナー獲得へ全力



公益財団法人
日本骨髄バンク
理事長
齋藤英彦

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

当法人は造血幹細胞移植を非血縁者間で斡旋するため、四半世紀にわたり善意のドナーを募って参りました。ドナー登録者数は現在約45万人(昨年11月末時点)にのぼり、当法人を通じてドナーを求める患者さんは年間約2300人、年間移植数は近年1300例前後で推移しております。発足以来の累計移植数は約1万9000例で、2万例に向けさらなる努力を続けて参る所存です。

当法人は毎年約16億円の事業費が必要で、その財源はおおまかに医療保険財源収入(4割)、国庫補助金(3割)、患者負担金(2割)、寄付金その他(1割)という割合です。患者負担金はコーディネート費用(連絡調整費やドナーの血液検査料など)の一部に充てています。移植に至った場合の患者負担金はピーク時に60万円を超えていましたが現在は19万円台で、この額は海外と比べて極めて廉価であります。

公的収入が7割を占める当法人の財政基盤は脆弱です。平成26年度はその脆さが露呈した形で1億円以上の赤字となりました。主因は移植件数と寄付金の減少です。昨年7月に財政安定化ワーキンググループ(WG)を立ち上げ、患者負担金の適正額や経費削減策、業務改善策を議論しています。WGの発案を受け、本部と地方の間で電話会議を試行して交通費・会議費を削るなど従来にない新機軸も打ち出しました。

骨髄バンクの患者負担金 2案を業務執行会議了承

年度内に理事会決定へ

日本骨髄バンク(以下、財団)の患者負担金値上げが12月18日(金)の業務執行会議で了承されました。「従来案」に加えて、さらに負担が増える「新案」も示されましたが、齋藤英彦理事長の説明によると、最終決定は今年度中に開催の理事会となります。

「従来案」は「ドナーの一般血液検査料(8985円)のうち、財団が肩代わりしていた3985円を負担してもらう」というものです。そのため、ドナー候補者4人の「モデルケース」による

世界の骨髄バンクで共通課題となっている「若年層ドナー獲得」では、ACジャパンの広告にメジャーリーガー上原浩治氏を起用するなど若者への浸透を図っております。これからも一人でも多くの患者さんが造血幹細胞移植を受けられるよう、ドナー登録者の増加、患者登録から移植までの期間短縮、そしてドナーの安全確保に一層努めて参ります。

今年もより一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

バンク共通の広報誌創刊



日本赤十字社
血液事業本部長

田所憲治

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。貴協議会が設立25周年を迎えられた昨年、記念事業の一つとして実施された日本縦断キャラバンでは、キャラバンカーとともに骨髄バンク・さい帯血バンクに関する話題が日本中を駆け巡りました。各種メディアに取り上げられる等、国民の理解を深める起点となったイベントを共催させていただきました。光栄に存じます。

本年1月で「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」の施行から2年を迎えます。この2年

患者負担金は「1万5940円増の20万6140円」となります。

一方、「新案」はこの肩代わり分に加えて「ドナーの採取中止の場合の術前検診とドナー本人確認検査」もドナー選定時に発生する費用であることから、移植実施患者に対して発生する「採取・フォローアップ調整料に追加する」ことで、モデルケースでは「2万9940円増の22万140円」とすることになります。

財団としては、この2つの案を今年度内の理事会に諮り、実施時期を含めて最終決定する予定だといひます。

ところで、「従来案」が示されてから全国協議会は「白紙撤回」を求めて

の間、日本赤十字社は造血幹細胞提供支援機関として、各種連絡会議の開催や骨髄バンク・さい帯血バンクポータルサイト「造血幹細胞移植情報サービス」の運営、さい帯血採取施設向けの研修会等を実施して参りました。

また、造血幹細胞の提供の推進に関する普及啓発として、若年層向けのマンガ冊子の作成や関係団体の若手メンバーによる作業部会の開催、自治体の造血幹細胞移植に関する教育事業への協力等、若年層へ向けた啓発活動に注力して参りました。本年1月には、皆さまにいただいたご意見を反映して作成を進めて参りました、骨髄バンク・さい帯血バンク共通の広報誌「BANK! BANK!」の創刊を予定しております。

さらに、公式Facebookページの開設等、新たな広報手段により、これまで骨髄バンクやさい帯血バンクの情報に触れる機会がなかった方々にも、様々な情報をお届けできるよう取り組んで参ります。

各関係事業者の業務が円滑かつ適正に実施され、移植を待つ患者さんを一人でも多く救うために、貴協議会をはじめ関係団体の皆さまと一丸となって、事業の充実、発展のために取り組んで参りますので、今後ともご協力を賜りますよう、よろしくごお願い申し上げます。

末筆ながら、貴協議会の益々のご発展と皆さまのご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

照会文書を出しましたが、財団は「10月実施を延期し、財政安定化ワーキンググループ(WG)で再検討する」と回答してきました。しかし、12月の業務執行会議ではWGでの論議について何も触れられないままで、手続的にも問題が残りました。

同席していた財団の監事からも「1億円の患者負担軽減積立金は今こそ活用すべきではないのか。全体的にシミュレーション不足など論議が足りない」などの意見が出されましたが、2案はそのまま「了承」となりました。

協議会は12月25日、財団の齋藤理事長宛てに「公開質問状」を、厚生労働省にも要望書を提出しました。

患者さん支えて1000回に 白血病フリーダイヤル20年で

血液疾患の患者さんの支援事業として1996年7月に開設した白血病フリーダイヤル(以下FD)は、昨年12月に1000回を迎えました。諸先輩方のご努力、専門医の先生方ならびに皆さまのご支援を賜った結果と心から御礼申し上げます。

今回までの相談件数は7358件を数え、多くの方々の支えになったものと思われま。相談者は患者さん本人からが36%、患者さんのご家族からが56%です。相談者の地域別では、関東、関西、中部の順で、ほぼ人口に比例しています。患者さんの年齢は60歳以上が22%と多く、次いで30～59歳の働き盛りの世代が計45%となっております。FDの最大の特徴は、第一線で活躍している血液内科専門医が、直接、相談者の医療相談に対応していることです。移植を薦められたが心配で決断できない、今受けている治療はこれで良いのか、もう他の治療法はないのか、再発の不安、主治医が良く説明してくれない——などの各種相談に、丁寧に対応していただいています。多くの相談者が納得し、明るくなっていく雰囲気を感じ、先生方のご努力に頭の下がる思いと共に、相談員みんなで心から喜んでいきます。また、相談の中には「移植、治療および社会復帰者の体験を聞きたい」なども比較的多く、元患者や患者家族などの相談員は相談者の気持ちを良く理解でき、大いに支えになったものと推測しています。情報

社会の中ですが、電話相談には、相談が容易、双方向である、声によるぬくもりなど優れたところが多く、今後より良い患者さんのご支援になるよう皆で研鑽を積んで参ります。

FD事業の初期、中期、現況に分けて、それぞれの時期の担当者に思い出を書いていただきました。

初期 フリーダイヤルで料金を気にすることなく相談ができ、専門医が隔週で相談員として加わっていることは、FDがスタートした当時では珍しいことでした。病気に関することならどんなことでも相談していたらこうと、相談者に寄り添うことをモットーに「よろず相談」に徹し、寄せられた相談を分別したうえでの改善・解決策の1つとして生まれたのがハンドブック「白血病と言われたら」です。編集に当たって、全国の骨髄バンク認定病院にアンケートを依頼しましたが、これも異例だったようで多くの先生から直接説明を求められ、編集担当者の電話代が跳ね上がったのも懐かしい思い出です。

中期 初期には血液難病に関する素人向けの分かりやすい参考資料はほとんどなく、患者さんや家族は

パニックに陥りながらも必死に情報集めに奔走しました。毎週土曜日の定刻10時を待ちかねたように電話が鳴り、熱心な相談が入りました。

数年たって相談員の中から、相談内容は血液難病を発病されたばかりの患者さんが知りたい情報であり、これを集約して参考資料を編纂して出版しようとの声があがり、「白血病と言われたら」初版が1999年8月刊行されました。その後、版を重ねていますが、医学知識から社会福祉分野まで網羅された、分かりやすい血液難病の参考資料として評価が高まりました。患者さんだけでなく、大きな病院から院内教育資料としてまとめて注文が入るようにもなりました。

現況 現在、相談員の構成は、専門医12人、元患者・患者家族・ドナー経験者などの相談員15人です。専門医も相談を受ける第2・4土曜日には、平均12件程度の相談が寄せられ、その内容は「治療方法・治療の確率」「病気の見通し・予後」に関するものが6～7割を占めています。

インターネットの普及に伴い、病気に関する論文に当たるなど、詳しく調べていらっしゃる方や、そういった情報で不安になられた方からの相談も増えてきています。主治医に不安や疑問を伝えきれずフリーダイヤルに相談してきた方に、会話の中で得られる限られた情報をもとに専門医が気持ちに寄り添い、丁寧に応えていらっしゃいます。

また、最近は「医療費および関連福祉支援制度」に関する相談も多くなっている印象を受けます。安定した助成制度が求められていると感じています。

区民が亡くなっていることから、患者さんのために1人でも多く骨髄バンクにドナー登録していただくきっかけになれば、という思いで導入しました」と話しています。

なお、日本骨髄バンクによりますと、全国の自治体でドナー助成制度を導入したのは豊島区が122番目になります。

● 25周年記念事業へのご寄付

田辺三菱製薬株式会社

5万円

自治体のドナー助成制度

豊島区が23区で初導入

東京都豊島区の「骨髄移植ドナー支援事業」が1月4日に始まります。東京都内では稲城市に次ぐ導入ですが、特別区である23区では初めてになり、今後、都内区市町村での導入が加速されそうです。

同区の「骨髄移植ドナー支援事業奨励金交付要綱」によれば、対象となるのは骨髄バンクで骨髄・末梢血幹細胞

を提供した住民登録のある区民と、その区民が業務に従事している事業所(公的機関を除く)で、1日当たりの奨励金(通院や入院期間の通算7日が上限)は区民が2万円、事業所が1万円となっています。

担当の同区地域保健課では「日本骨髄バンクからの依頼もありましたが、何よりも豊島区は『がん対策推進条例』を2010年に制定してがん対策に先駆的に取り組んでいますので、血液のがんである白血病によって毎年数十人の

「わたし、がんばったよ。」
急性骨髄性白血病をのりこえた
女の子のお話。講談社から出版

岩貞るみこさんの文章と松本ぷりっつさんの絵で構成されたノンフィクションで、「生きるとは？ 家族とは？ 学校とは？ 友だちとは？」などを考えさせる内容となっています。

主人公の美咲ちゃん(仮名)は4歳で急性骨髄性白血病となり、5歳で骨髄移植を受けました。治療や服薬を頑張り、家族に温かく支えられながら元気を取り戻していきます。退院後は待望の小学校へ入学します。けれど掃除や体育ができないから「ずるい」といじめられてしまいます。

病気の人、みんなと違う人を受け入れることのできない子どもたち、残念ながらそれは人の心の中にある暗部かもしれません。本書は闘病の大変さだけでなく、人を理解して思いやる気持ちを考えさせてくれます。「どんな場

面でも、ちょっとできる人が、ちょっとできない人を、ほんのちょっと思いやることができれば、すてきだなんて思います(本文より)」。本体価格は1400円です。

がん患者と家族のための
在宅療養ガイドまとまる

がんを患った患者さんが、「その人らしい生活」を維持しながら、自宅や施設で過ごすとき、家族や知人はどう対応すればいいのでしょうか——。少しでも患者さんとそのご家族の思いを支える手助けとなるためのガイドブックが出来上がりました。

国立がん研究センター、がん研究会有明病院、東京大学死生学・応用倫理センター、帝京大学の医師や研究者で構成されている地域におけるがん患者の緩和ケアと療養支援情報プロジェクト(リーダー・渡邊清高・帝京大学医学部准教授)がまとめた「ご家族のためのがん患者さんにご家族をつなぐ在

宅療養ガイド〜がん患者さんが安心してわが家で過ごすために」(A5判144ページ)がそれです。

すい臓がんになった会社員(59)を支える妻(55)が、相談員とコミュニケーションをとることで、不安や戸惑いを乗り越えながら、在宅療養の開始から看取りのときを迎えるまでの道のりを実態に即して分かりやすく解説、多職種の人材で構成される在宅療養支援チームの必要性が理解できます。章立てを見ると、第1章=在宅での療養を始める、第2章=「最期のとき」に向き合うこと、第3章=人生の最期をともに生きる、第4章=お別れの時期——となっており、巻末にはお役立ち情報や、医療機関・相談窓口の関連情報も掲載されています。

このガイドは、同プロジェクトのホームページで全編をPDFで読むことが可能です。プリンターによる冊子形態の印刷方法も説明されています。
<http://homecare.umin.jp/>

賛助会員の皆さま紹介

全国協議会では特に今年度、賛助会員の募集に力を入れています。昨年12月20日現在で計154人・団体の方々に申し込みをいただいています。一括して会員のお名前を紹介し(同一地域は入会順、敬称略)。次号以降は毎月20日現在で新規会員を掲載してまいります。なお、賛助会費は確定申告による寄附金控除の対象となります。

【特別賛助会員】

渋谷俊徳、直原徹、吉川敏=東京▽村上忠雄=神奈川県

【一般賛助会員】

笠師久美子、学校法人北海道鍼灸専門学校 笠井正晴、米積昌克=北海道▽菅早苗=秋田▽吉田幸恵=岩手▽池田和俊=福島▽野村正満、野澤登美

子、吉田俊郎、匿名=茨城▽阿久津美百生、匿名=栃木▽川越初雁ライオンズクラブ、阿南朋恵、村上純子=埼玉▽諸岡孝昭、塚崎邦弘、中世古知昭、匿名=千葉▽アズテック株式会社、株式会社THINKフィットネス、三瓶和義、岡村正、増岡秀一、安井寛、山口博樹、東井朝仁、三報社印刷株式会社、梶原道子、若木換、溝口木ふみ、匿名=東京▽折橋尚道=神奈川▽藤原正博、成田美和子=新潟▽平林幸生=長野▽吉田晶代=富山▽匿名=石川▽竹中武弘、堀江弘宣、和田病院、岡本住建株式会社、高橋製作所、山口和昭、吉田木材株式会社 吉田慶子、柳瀬信治、山川隆司、サンメッセ株式会社=岐阜▽坂口公祥、藤澤紳哉=静岡▽上入来正、飯田美奈子、田中真己人、稲熊容子、平林紀男=愛知▽三重大学医学部附属病院=三重▽医療法人洛和会、立川章太郎、志村勇司、木元弥生、日本バプテスト病院=京都▽大野仁嗣=奈良▽玉置俊治、太田清孝=大阪▽株式会社東洋彫刻製作所、岡本隆弘、神前昌敏=兵庫▽竹谷健=鳥根▽松尾直光、谷本光音=岡山▽土肥博雄、杉原尚、一戸辰夫、川口浩史=広島▽渡辺力、後藤哲也=徳島▽松岡亮仁=香川▽東太地=愛媛▽綾目秀夫、竹本法次、田中雄一郎、金原洋

治=山口▽辻枝雄、塚田順一=福岡▽武本重毅=熊本▽河野嘉文、新小田雄一、重久善俊=鹿児島▽テニスサークルライナーズ、大城一郁、具志一男=沖縄

【サポート会員】

斎藤佳子=北海道▽金子せい子=秋田▽星能元=岩手▽今泉益栄=宮城▽野澤明男、野村純子、小沼勲、中根康雄=茨城▽塚越晴美=群馬▽河原利枝、沼田青宝=埼玉▽田村俊道、志田和子、笹倉憲子、千葉文男、会田茂=千葉▽早川正行、小林美由紀、川崎暁子、中村信、大場理恵=東京▽宮川康吉、宮村進治、加藤澄代、西村正之、持丸宗行、青山幸一、額田忠、山口英夫、藤井正、渡辺孝一、切明隆、鈴木兼三、岩崎哲久、匿名=神奈川▽金子和子=新潟▽妹尾紀子=長野▽上田幹夫=石川▽安東恵子、田部隆、田中重勝、中川保、鈴木敏生、魚住精三郎、石原佳洋、河合保孝、土田友江=岐阜▽中山武彦、三矢昭夫=愛知▽匿名=三重▽中津和美=京都▽山村詔一郎=奈良▽櫻井哲子、岡村隆行=大阪▽山下晋司、匿名=兵庫▽田中年子=鳥根▽西森久和=岡山▽森実栄一=愛媛▽下村正信、濃川彰子=山口▽城戸孝敏=福岡▽河野文夫=熊本▽兼元栄進=沖縄

今日も Fight でボランティア! ③ ドキドキ...?

by 杉本 はるみ



各地のたより

各地のたよりを写真を添えてお寄せください

東京 バラのかおりのコンサート 患者・ドナーのミニトークも



アンコール曲で、許可を得て撮影

ピアノ三重奏による「バラのかおりのコンサート」が11月23日(月)、東京・発明会館ホールで開かれました。当日配布されたプログラムに5人のドナーさんからのメッセージあり、コンサートの直前に読ませていただいたからでしょうか、前半演奏のブラームスを深く拝聴することができました。

幕間に患者さんとドナーさんのミニシンポジウムがありましたが、あまりにも感動的な内容に気持ちが傾き、担当した記録撮影どころではありませんでした。ロビーでの販売も大盛況で花束もすぐ売り切れてしまいました。想定以上の観客を迎えることができたこと、来場者・演奏者の皆さまに心より感謝いたします。(公的骨髄バンクを支援する東京の会・鳥羽雅行)

千葉 成田山で設立25周年イベント 紅葉彩る弦楽二重奏と落語



熱弁をふるう桂右女助さん

千葉骨髄バンク推進連絡会設立25周年記念行事として、「骨髄バンクチャリティコンサートと落語会」を11月28日(土)、成田山新勝寺信徒会館ホールにて開催。約200人の方々にお越しいただき、楽しい落語と素晴らしい

らしいバイオリンとチェロの二重奏に心癒やされるひとときを過ごしました。合間には、元患者さんと元ドナーさんのミニトークが行われ、骨髄バンク・骨髄移植への理解を深めることができましたと感じています。

昨年に続き2回目の成田山新勝寺での開催となりましたが、当日は雲ひとつない青空で見ごろとなった成田山公園の紅葉や名物勝ちごぼうの精進料理も楽しんでいただけたのではないのでしょうか。成田市長からもご挨拶いただき、多くの後援や協賛をちょうだいし、大勢の来場をいただき、無事大成功を収めることができ本当に嬉しく思います。(千葉骨髄バンク推進連絡会・北村美和子)

宮崎 青島太平洋マラソン 「移植から20年」で挑戦



と宮崎の会のメンバー
豊永さん(キティちゃんの左)

今年も青島太平洋マラソンがやってきました。宮崎の会では啓発活動のひとつとして元患者やドナーがマラソンに参加していますが、私も3^{キロ}、5^{キロ}、10^{キロ}と距離を伸ばし毎回走っています。

5、6年前に「2回目の成人」を迎えることに気付いた私は、感謝の気持ちを伝えるため何か大きな事に挑戦しようと考えていました。骨髄バンクの啓発にも繋がりそうな「生きるチャンス

をもらって20年たちます！」と、発信できる何か、ということから10^{キロ}から距離を伸ばしてハーフに出てみよう！と決めました。ところが、ここ5、6年でハーフがなくなり、残るはフルマラソンでした。この私がフルマラソンに挑戦!? かなり迷いましたが今年の日程が発表され、私にとってとても大切な12月13日(日)と同じだったことから、決断しました。

今回、私の気持ちに対し、たくさんの方から協力がありました。宮崎日日新聞には、『骨髄移植から20年』という見出しで大きく載せていただきました。当日、走っている時に大勢の方々から「新聞の子ね!」「骨髄移植受けて元気になったの? 走ってるなんてすごい!」「私も頑張るから! ありがとう!!」と声をかけられました。

病気のおかげで得ることのできたヒトや環境、モノ(もちろん今の私の身体も)との縁を今後も失いたくない、手放さない、逃さない、と改めて感じました。今回は途中で残念ながらリタイアしましたが、来年リベンジする楽しみができました♪(みやぎ骨髄バンク推進連絡会議・豊永由希恵)

東京 としまふれあいバザール

11月3日(火)、東京・豊島区立池袋西口公園で開催された「としまふれあいバザール」に今年も参加しました。主催の豊島区明るい社会づくりの会様からは売り上げの一部を毎年ご寄付いただいております。今年もバザール後に当会事務局までご足労くださり、10万円のご寄付を賜りました。

心からのご寄付に感謝申し上げます ● 11月21日～12月20日(敬称略)

豊島区明るい社会づくりの会	現金	100,000円	金井 誠一	現金	10,000円	匿名	現金	3,328円
パワーバランスジャパン株式会社	現金	1,909円	藤倉 光枝	現金	10,000円	●佐藤さち子患者支援基金		
伊藤 静子	現金	20,000円	江上 義紀	現金	10,000円	公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構	現金	17,107円
野澤 登美子	現金	6,000円	櫻井 康司	現金	30,000円	学校法人 花田学園現金	300,000円	
福岡 究	現金	10,000円	渡辺 徳孝	現金	2,000円	櫻井 康司	現金	30,000円
前田 スミ子	現金	7,000円	山口 英夫	現金	10,000円	三森 裕	現金	30,000円
大田 耕一郎	現金	10,000円	鈴木 純子	現金	1,341円	匿名	現金	2,000円
塩谷 泰人	現金	1,000円	匿名	現金	5,000円	匿名	現金	2,000円
佐藤 祥子	現金	10,000円	●白血病患者支援基金			●募金箱		
三品 雅義	現金	10,000円	越田 智佳子	現金	10,000円	カラオケハウスマロン	松林靖明	
			金沢 朝子	現金	50,000円		現金	17,509円
			中山 雅雄	現金	2,000円			

活動資金の支援をお願いします 銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 普通 5666655 郵便振替口座 00150-4-15754

口座名: 特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会